

企画・執筆者紹介 (五十音順)

荒岡秀樹 あらおか・ひでき

虎の門病院 臨床感染症科 医長

2003年和歌山県立医科大学卒。東京厚生年金病院内科、杏林大学医学部第一内科(呼吸器内科)を経て、2007年より虎の門病院臨床感染症科。専門は免疫不全患者の感染症。特に、造血幹細胞移植領域の感染症、グラム陰性桿菌感染症、真菌感染症。

施設の特性上、血液悪性腫瘍患者に関連する日和見感染症の診療に従事する機会が多い。

石黒 洋 いしぐろ・ひろし

国際医療福祉大学病院 腫瘍内科 教授

1966年宮城県生まれ。1985年金沢県立高校卒。1991年金沢大学医学部卒。1993年より、ニューヨーク・ベセススラエル総合病院一般内科臨床研修。1996年、ニューヨーク大学病院腫瘍内科・血液内科専門臨床研修。1999年、千葉西総合病院臨床腫瘍・血液科長。2001年より、千葉大学大学院医学研究院病態病理学大学院生。2005年より京都大学大学院医学研究科探索臨床腫瘍学講座特定助教(2014年より、同大学院標的治療腫瘍学講座特定准教授)。2017年より現職。専門は腫瘍内科、乳がん薬物療法、がん支持療法、新規医薬品・医療機器の臨床開発。

これまでの著作に、Textbook of Palliative Medicine and Supportive Care (CRC Press, 2016年)、『入門腫瘍内科学 改訂第2版』(篠原出版社, 2015年)、『What's New in Oncology がん治療エッセンシャルガイド』(初版から3版まで) (南山堂)、『オスラーメディカルハンドブック 原著第2版』(エルゼビア・ジャパン, 2008年)、『血液/腫瘍学シークレット』(メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2004年)、『アメリカ臨床留学への道』(初版、第2版) (南山堂) 他、多数。

市原 真 いちはら・しん

札幌厚生病院 病理診断科

1978年北海道生まれ。2003年北海道大学医学部卒。2007年北海道大学大学院医学研究科分子細胞病理学博士課程修了。国立がん研究センター中央病院病理部にて半年間の任意研修後、2007年10月より札幌厚生病院病理診断科。病理専門医、臨床検査管理医、細胞診指導医。

Twitter: @Dr_yandel

上園保仁 うえぞの・やすひと

国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野 1959年宮崎県生まれ。1985年産業医科大学卒、1989年同大学院修了。医学博士取得。1991～93年まで米国カリフォルニア工科大学生物学部門留学。2004年長崎大学大学院医歯薬学研究所内臓薬理学准教授。2009年より現職。2015年より国立がん研究センター先端医療開発センター支持療法開発分野分野長を兼任。専門は分子神経薬理学、緩和医療学。

これまでの著作に、『Q&Aでわかるがん疼痛緩和ケア』(じほう, 2014年)、『長生きするがん治療』(ワニブックス, 2015年)、『今すぐ始めたい婦人科がん領域における緩和医療の実践』(金原出版, 2017年)などがある。

宇原 久 うはら・ひさし

札幌医科大学医学部 皮膚科学講座 教授

1960年長野県生まれ。1986年北海道大学医学部卒。信州大学で皮膚科研修医、1987年同助手を経て、1988年から国立がんセンター研究所病理部および附属病院皮膚科任意研修医。1990年諏訪赤十字病院皮膚科、1991年信州大学医学部附属病院皮膚科助手、1995年同講師、2011年より同准教授。2017年より現職。専門は皮膚腫瘍の診断と治療、臨床試験、皮膚科診断学。

これまでの著作に、『皮膚科診断をさわる:目を閉じて診る、もうひとつの診断学』(学研メディカル秀潤社, 2016年)、『どう診る? どう治す? 皮膚診療ははじめの一步～すぐに使える皮膚診療のコツとスキル』(羊土社, 2013年)、『皮膚科への一步』(電子書籍、パグー)など。

ブログ:うはら皮膚科 (uhara.org)

大坂 巖 おおさか・いわお

静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科 部長

1964年東京都生まれ。1987年筑波大学第二学群生物学類卒。1989年筑波大学大学院環境科学研究科中退。1995年千葉大学卒。千葉大学医学部附属病院放射線科、沼津市立病院放射線科を経て2002年、静岡県立静岡がんセンター緩和医療科副医長。2010年より現職。専門は緩和医療学。日本緩和医療学会専門医、理事、緩和ケア普及に関する関連団体支援・調整委員会委員長、専門家をめざす人のための緩和医療学改訂WPG長。

これまでの著作に、『そのまま使える 緩和ケア患者説明ガイド』(編著) (メディカ出版, 2017年)、『専門家をめざす人のための緩和医療学』(分担執筆) (南江堂, 2014年)など。

大住省三 おおすみ・しょうぞう

国立病院機構四国がんセンター 乳腺外科 科長

1957年10月生まれ。1982年岡山大学医学部卒。1986年岡山大学大学院修了(病理学)。同年、岡山大学第二外科入局。1987年国立岡山病院(当時)外科レジデント。1989年愛媛県伊予三島病院外科。1991年スタンフォード大学留学(病理学)。1993年岡山大学第二外科、同年国立病院四国がんセンター外科。2005年国立病院機構四国がんセンター乳腺科医長。2012年同がんセンターがん診断・治療開発部長。

角甲 純 かこう・じゅん

広島大学大学院 医歯薬保健学研究科 看護開発科学講座/老年・がん看護開発学

1983年広島県生まれ。2006年広島大学卒。土谷総合病院、国立がんセンター中央病院(当時)での勤務を経て、2010年、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻がん看護専門看護師コースに進学。修了後は国立がん研究センター東病院にて勤務し、2018年より現職。専門は緩和ケア。

勝俣範之 かつまた・のりゆき

日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科 教授
1963年山梨県生まれ。1988年富山医薬大学卒。徳州会病院での研修を経て1992年、国立がんセンター中央病院内科レジデント。その後、同センター専門修練医、第一領域外来部乳腺科医員を経て2003年、同薬物療法部薬物療法室医長。2004年ハーバード大学公衆衛生院留学。2010年、国立がん研究センター中央病院乳腺科・腫瘍内科外来医長、2011年より現職。専門は腫瘍内科学、がん支持療法。
これまでの著作に、『がん診療レジデントマニュアル』（医学書院、初版～第5版）、『誰も教えてくれなかった婦人科がん薬物療法』（メジカルビュー社、2015年）、『がん治療薬まるわかりBOOK』（照林社、2015年）、『「抗がん剤は効かない」の罪』（毎日新聞社、2014年）など。

川上和宜 かわかみ・かずよし

がん研有明病院薬剤部 主任
1974年岡山県生まれ。2000年昭和薬科大学大学院薬学研究科修了。2000年4月より癌研有明病院薬剤部勤務、2011年公益財団法人がん研有明病院薬剤部主任、2013年昭和薬科大学にて「Paclitaxelによる末梢神経障害重篤化のリスク因子解析及び基礎的研究」にて博士（薬学）取得（田口恭治教授）。2015年より現職。研究テーマは、抗がん剤による末梢神経障害、経口抗がん薬のadherence。これまでの著作に『今日の治療薬』（南江堂）、『がん化学療法レジメン管理マニュアル』（医学書院、2012年）、など。

北野滋久 きたの・しげひさ

国立研究開発法人がん研究センター中央病院 先端医療科
先端医療開発センター新薬臨床開発分野・免疫療法開発分野
1972年大阪府生まれ。1998年三重大学医学部卒、同大学内科学第二講座に入局、同科関連病院にて一般内科研修を行なう。2001年、三重大学大学院医学系研究科入学、造血器腫瘍と固形腫瘍の診療を行ないつつ、新規がん免疫療法の臨床試験、患者免疫応答解析の研究に携わる。2005年、同大学大学院医学系研究科 遺伝子・免疫治療学講座の助手。2008年、同血液・腫瘍内科助教。2009年、Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, Ludwig Center for Cancer Immunotherapy (Drs.Jedd Wolchok and James Allison)に留学、免疫チェックポイント阻害剤（抗CTLA-4抗体療法、抗PD-1抗体療法など）の新規がん免疫療法の開発、臨床試験登録患者の免疫応答解析を主としたトランスレーショナルリサーチ（TR）に携わる。2013年帰国、国立がん研究センター中央病院に赴任し、新規がん免疫療法をはじめ各種新規薬物療法の早期臨床試験、TRを行なっている。専門は腫瘍内科学、腫瘍免疫学、がん薬物療法（特にがん免疫療法）。

楠本 茂 くすもと・しげる

名古屋市立大学大学院医学研究科 血液・腫瘍内科学 准教授
1972年徳島県生まれ。1997年名古屋市立大学卒。同大学病院にて2年間の初期研修のち、静岡済生会総合病院にて血液内科医として3年間勤務。2002年より国立がんセンター中央病院内科レジデント。2005年より名古屋市立大学病院血液内科医として勤務。2010年より同血液内科副部長。2018年より現職。
専門は悪性リンパ腫・多発性骨髄腫の新規治療開発、がん化学療法後のB型肝炎ウイルス再活性化の標準的対策法の確立。
座右の銘は、°出水兵児修養掟。です。

國頭英夫 くにとう・ひでお

日本赤十字社医療センター 化学療法科 部長
1961年鳥取県生まれ。1986年東京大学医学部卒。国立がんセンター中央病院内科などを経て現職。日本臨床腫瘍学会協議員・日本肺癌学会評議員。
これまでの著作に里見清一名義で『偽善の医療』（2009年）、『衆愚の病理』（2013年）、『医師の一分』（2014年、すべて新潮新書）、『誰も教えてくれなかった癌臨床試験の正しい解釈』（中外医学社、2011年）など多数。

倉井華子 くらい・はなこ

静岡県立静岡がんセンター 感染症内科 部長
1977年生まれ。2002年富山医薬大学卒。都立駒込病院の研修を経て、2005年横浜市立市民病院感染症内科。2010年静岡県立静岡がんセンター感染症内科。専門は臨床感染症、感染症対策。
これまでの著作に、『がん患者の感染症診療マニュアル 第2版』（南山堂、2012）。『がん診療に携わる人のための静がん感染症治療戦略』（日本医事新報社、2016）

公平 誠 こうだい・まこと

公平病院 腫瘍内科
1979年埼玉県生まれ。2004年に千葉大学を卒業し、千葉大学などでの研修を経て、2006年がん研有明病院化学療法科レジデント。2010年に国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科がん専門修練医、2011年～同医員、2014年～希少がんセンター兼任、2016年より医療法人慈会公平病院病院長。2017年千葉大学大学院卒業。専門は腫瘍内科であり、Community Oncologistとして活動している。
これまでの著作に『新臨床内科学』（医学書院、2009年）、『What's New in Oncology』（南江堂、2015年）など。

河野 勤 こうの・つとむ

公益財団法人 佐々木研究所附属 杏雲堂病院 腫瘍内科／化学療法部
1970年大阪府生まれ。1996年名古屋大学卒。愛知県厚生連海南病院での研修を経て2000年、国立がんセンター中央病院内科レジデント。その後、同センター専門修練医を経て2005年乳腺・腫瘍内科医員。2008年日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医取得。2010年、杏雲堂病院 腫瘍内科医長。2013年より同院腫瘍内科科長、2014年より同院化学療法部部長兼務。専門は腫瘍内科学、緩和医療学。

後藤知之 ごとう・ともゆき

滋賀県立総合病院 消化器内科／化学療法部 外来化学療法センター長
1981年生まれ。2007年京都大学卒。京都大学医学部附属病院、倉敷中央病院消化器内科シニアレジデント、京都大学大学院医学研究科消化器内科学講座を経て、2016年より滋賀県立成人病センター（現・滋賀県立総合病院）消化器内科医員、2017年より化学療法部副部長、2018年より現職。がん薬物療法専門医、総合内科専門医、消化器病専門医。

桜井なおみ さくらい・なおみ

NPO法人HOPEプロジェクト理事長、一般社団法人CSRプロジェクト理事長、キャンサーソリューションズ代表取締役社長
1967年、東京都生まれ。2004年夏、30代でがんの診断を受ける。その後、自らががん経験や社会経験から小児がん経験者や働き盛りのがん経験者支援の必要性を感じ、2005年から、がん経験者・家族支援活動を開始、現在にいたる。医療と社会をつなげるべく、東奔西走中。
社会福祉士、精神保健福祉士、技術士、産業カウンセラー。
第21回人間力大賞会頭特別賞受賞、エイボンプロダクツハロートゥモロー受賞、社会イノベーター公志園2012出場。
これまでの著作に、『希望の言葉を贈りあおう』（静流出版、2010年）、『がんと一緒に働こう―必携CSRハンドブック』（合同出版、2010年）、『薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム』（羊土社、2011年）。『がん放射線治療』（学研メディカル秀潤社、2011年）、『あの一ひかがんになったら―「通院治療」時代のつながり方』（中央公論新社、2018年）など。

佐治重衡 さじ・しげひら

福島県立医科大学腫瘍内科学講座 主任教授
同附属病院 臨床腫瘍センター センター長
放射線医学県民健康管理センター 地域がん登録室 室長
1968年岐阜県生まれ。1992年岐阜大学医学部卒業。東京都立駒込病院、岐阜大学大学院、埼玉県立がんセンター研究所、カロリンスカ医科大学（スウェーデン）、東京都立駒込病院乳腺外科・臨床試験科、M.D.アンダーソンがんセンター（米国）、埼玉医科大学国際医療センター腫瘍内科、京都大学大学院医学研究科標的治療腫瘍学講座を経て2014年9月より現職。特に乳癌を専門とする腫瘍内科医として診療を行ないながら、ホルモン療法・分子標的治療に関する基礎・臨床・トランスレーショナル研究を継続している。
これまでの著作に『内科学 第10版』（朝倉書店、2013年）、『新臨床腫瘍学』（南江堂、2015年）。『最新 内分泌代謝学』（診断と治療社、2013年）など。

品田雄市 しなだ・ゆういち

東京医科大学病院 がん専門相談員
1973年埼玉県生まれ。1995年より東京医大病院に勤務し、現在は医療福祉相談係長。国立がん研究センター相談員研修講師を務める他、新宿区や東京都のがん対策推進関連の委員として、地域における包括的かつ効果的ながん患者支援体制作りにも携わる。社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員・認定医療社会福祉士。専門は医療ソーシャルワーク、がん・脳卒中・救命救急などの急性期におけるソーシャルワーク実践。「相談したら気持ちが温かくなった」と患者さんに感じてもらえる相談支援を心掛けている。
これまでの著作に『医療福祉総合ガイドブック』（医学書院、2017年）など。

篠原 旭 しのはら・あきら

国立がん研究センター東病院 薬剤部
1984年東京都生まれ。2008年富山医科薬科大学卒。2010年富山大学大学院医学薬学教育部修了。2010年より、国立がん研究センター東病院薬剤師レジデント。その後、2013年より現職。専門は肝胆膵がん化学療法、がん支持療法。

清水 研 しみず・けん

国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科 科長
1971年石川県生まれ。1998年金沢大学卒。東京都立荏原病院での初期研修後、国立精神・神経センター武蔵病院精神科、東京都立豊島病院精神科にて精神科一般の研修を積む。2003年より国立がんセンター東病院精神科レジデントとなり、以降は精神腫瘍学を専門とし、がん患者およびその家族の診療に専心している。2012年より現職。
『人生でほんとうに大切なこと』（稲垣麻由美著、KADOKAWA、2017年）に清水先生として登場。

白波瀬丈一郎 しらはせ・じょういちろう

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 特任准教授
1960年京都府生まれ。1986年慶應義塾大学卒。卒後、慶應義塾大学病院にて研修を経て、東京武蔵野病院、丘の上病院、慈雲堂内科病院に勤務。1996年慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室助手。2003年同医学部専任講師。2014年より現職。
専門は力動精神医学、精神分析学。

津田 萌 つだ・もえ

京都大学大学院医学研究科 外科学講座 乳腺外科学
1985年高知県生まれ。2010年京都大学卒。市立堺病院での初期研修を経て2012年より京都大学医学部附属病院乳腺外科医員、2014年国立病院機構京都医療センター腫瘍内科専修医。その後京都大学大学院へ進学し現職。専門は乳腺化学療法、がん支持療法。
『CANCER BOARD of the BREAST』にて連載「薬物療法マネジメントのこつ」（メディカルレビュー社、定期刊行）など。

露木 茂 つゆき・しげる

日本赤十字社大阪赤十字病院 乳腺外科 部長
1964年横浜生まれ。1989年島根医科大学医学部卒。1998年京都大学博士（医学）取得。
1989年より京都大学病院第一外科、第二外科および京都大学関連施設で外科研修。1994年より京都大学医学研究科第二外科にて研究。1998年、三菱京都病院外科医長。1999年に米国国立衛生研究所（NIH）内、食品医薬管理局（FDA）（リサーチフェローとして）に留学。2001年、京都大学病院第二外科医員。2002年、社会保険小倉記念病院外科副部長。2005年より日本赤十字社大阪赤十字病院外科、2006年に同院乳腺一般外科副部長。2014年より現職。
専門は乳腺外科、外科腫瘍学。

新倉直樹 にいくら・なおき

東海大学医学部 乳腺・内分泌外科 教授
1975年神奈川県生まれ、2002年東海大学医学部卒、東海大学第2外科学講座で研修2007年から乳腺・内分泌外科を専門とする。
2009～2010年MD Anderson Cancer Center Breast Medical Oncologyへ留学、帰国後東海大学医学部乳腺・内分泌外科助教。2014年、京都大学標的治療腫瘍学講座助教、2015年より東海大学医学部乳腺・内分泌外科講師。2018年より現職。
専門は乳腺・腫瘍学、がん支持療法、ビッグデータ研究、補完代替医療としてのヨガ。

橋本一径 はしもと・かずみち

早稲田大学文学学術院 教授
1974年生まれ。東京大学文学部思想文化学科卒業。フランス・ナント大学理工学部DEA課程修了。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。愛知工科大学講師を経て、2012年より現職。専攻は表象文化論。
これまでの著作に『指紋論——心霊主義から生体認証まで』（青土社、2010年）など。訳書として、J=N・ミサ、P・ヌーヴェル編『ドーピングの哲学』（新曜社、2017年）など多数。

華井明子 はない・あきこ

国立がん研究センター支持療法開発部門／社会と健康研究センター特任研究員
1985年神奈川県生まれ。2009年京都大学卒。鶴巻温泉病院で回復期・特殊疾患療養・緩和ケア作業療法を経て、2013年、京都大学大学院入学。京都府作業療法士会自助具専門相談アドバイザーなどを経て、2018年より現職にて日本支持療法研究グループ（J-SUPPORT）の事務局に従事。日本がんサポーターズケア学会神経障害部会委員。
専門はリハビリテーション、がん支持療法（非薬物介入）。

森 玄 もり・たかし

練馬光が丘病院 薬剤室
1973年京都府生まれ。1997年明治薬科大学卒。2003年山王メディカルプラザ薬剤室において化学療法に携わる。2005年国際医療福祉大学附属三田病院 薬剤部、2009年杏雲堂病院 化学療法部などを経て、2014年より現職。また、2007年よりNPO法人 がん情報局 事務局長を務める。専門は乳がん化学療法。

八木佑加子 やぎ・ゆかこ

甲南病院・緩和ケア内科

1984年兵庫県生まれ。2012年近畿大学卒。神戸大学医学部附属病院で初期研修医、2014年より明石医療センター後期研修医。2016年、兵庫県立加古川医療センター緩和ケア内科に勤務。2017年4月から清水メディカルクリニックで在宅医療を学び、10月から国立がん研究センター東病院緩和医療科短期レジデント。2018年から現職。専門は緩和ケア。

矢内貴子 やない・たかこ

国立がん研究センター中央病院 薬剤部

1981年福島県生まれ。2006年昭和大学大学院薬学研究科修了。2006年4月より国立がんセンター中央病院第1期薬剤師レジデント。3年間の薬剤師レジデントを経て、2009年4月より国立がんセンター中央病院薬剤部常勤。主な取得資格は、がん専門薬剤師、指導薬剤師（日本医療薬学会）。これまでの著作に『がん化学療法レジメン管理マニュアル第2版』（医学書院、2016年）、『がん患者に対するアピアランスケアの手引き 2016年版』（金原出版、2016年）、『臨床で活かす がん患者のアピアランスケア』（南山堂、2017年）、など。

山内智香子 やまうち・ちかこ

滋賀県立総合病院 放射線治療科 科長

1968年三重県生まれ。1993年三重大学医学部卒。京都大学医学部附属病院での研修を経て、滋賀県立成人病センター（現滋賀県立総合病院）放射線科入局。1999年より京都大学大学院医学研究科博士課程、京都大学医学部附属病院放射線治療科医員・助教を経て2009年より現職。専門は放射線腫瘍学全般（専門医・指導医）。日本乳癌学会の乳腺専門医・指導医でもある。